

こみせどおりしょうてんがい

こみせ通り商店街 (こみせ通り商店街振興組合)

青森県黒石市中町

地域と連携し観光資源「こみせ」 を活かしたまちづくり



取組の背景

観光資源を活かした まちづくりへの取組

こみせ通り商店街は、この15年間で事業者の高齢化が進み、日常的な来街者数も減少傾向にあった。黒石市の歴史や文化を守り、経済を支えている同商店街を存続させるためには、地域外からの来街者を地域一体となって増やす仕組みを作ることが喫緊の課題であると認識し、取組を開始した。

増加傾向にあった台湾や中国からの外国人旅行者も視野に入れ、平成30年度「地域・まちなか商業活性化支援事業」や令和元年度「商店街活性化・観光消費創出事業」を活用し、国内外の個人旅行者を対象とした屋内イベントスペースを備えた総合宿泊施設「こみせの宿 ホテル逢春」を2020年4月に完成させた。しかし新型コロナウイルス感染症の影響によって、市内で毎月開催していたイベントを中止するなど自粛の対応が必要となった。

新型コロナウイルス感染症が収束しないなか、商店街

の飲食店ではテイクアウト事業を開始するなど、ウィズコロナへの対応を進めている。また当初想定していた、関東圏や台湾・中国など地域外からの観光誘客から、近隣市町村住民へターゲットを転換した。遠出ができないなかでニーズが高まる「マイクロツーリズム」による地元の魅力再発見企画など、「中町こみせ通り」という観光資源を擁する同商店街ならではの、新たな事業展開に取り組んでいる。



宿泊・交流施設「こみせの宿 ホテル逢春」

取組の内容

ウィズコロナ、新たな形で 地域を盛り上げる

海外旅行者の対応として弘前大学と連携し実施した外国人観光客を想定した留学生モニターツアーを実施し、街歩きを通して意見を集約、消費動向の調査を実施した。市内の観光表示板の多言語化や多言語マップの配布など、今後の観光コンテンツ造成にむけた課題を明確にすることができた。

また新型コロナウイルス感染症拡大を受け中止となった日本三大流し踊りの一つである「黒石よされ」の代替として、元銭湯を利活用し市民交流や情報発信などコミュニティ拠点となっている「松の湯交流館」にミニやぐらを設置した。マスク着用、三密回避、体温測定を徹底したうえで市民が自由に「黒石よされ」を踊ることができる場を創出した。また、こみせ通りに扇ねぶた1台とねぶた絵30枚を設置し、「黒石よされ」とともに中止となった

「黒石ねぶたまつり」も併せ、黒石の夏祭りの雰囲気をも市民に提供した。

毎年9月に開催される「黒石こみせまつり」は、接触確認アプリの事前登録の呼びかけやサーモカメラによる非接触型の体温測定器を設置するなど、感染対策を行ったうえで実施。市内飲食店の経営支援のため5月より市内飲食店のお弁当をテイクアウトする取組「黒石エール飯」のまつり限定の「お弁当市」を企画、開催した。

また、冬期間のにぎわい創出に向け、中町こみせ通り



「松の湯交流館」ねぶた絵

のイルミネーションによる彩りや、「松の湯交流館」前にクリスマスを題材としたねぶた絵を飾るなど、マスク着

用や体温測定などの感染対策を取ったうえで密を作らず市民に楽しんでもらう企画も実施している。

取組の成果

新たな「黒石こみせまつり」で地域が元気に

コロナ対策を行ったうえで開催した「黒石こみせまつり」は、久しぶりのイベントということもあり、コロナ禍であるにもかかわらず近年トップクラスの集客数を記録した。また、こみせまつり限定で開催した、黒石エール飯

「お弁当市」では、開催当日の午前中にはほぼ完売するほどの盛況ぶりとなった。

地域資源としての「こみせ」を活かしイベントを毎月実施するなど、積極的に取り組んでおり、コロナ禍で疲弊するなかではあるが、同商店街で新たに店舗開業があるなど、前向きな動きが出てきている。

実施体制

理事長を支える9名の役員、メンバーが、それぞれの得意分野を活かし体制を構築している点が同商店街の強みである。イベント開催前には、同商店街メンバーや商工会議所、行政担当者での打合せを行い、どうすればこみせ通りに人が集まり、また、来ていた

だいた方に楽しんでもらえるかについて繰り返し議論を行い、立場や役職にとらわれず意見を出し合うことで、同商店街のビジョン実現を進めている。

また黒石市としても同商店街の活動を後押ししており、黒石市中心市街地活性化基本計画では、中町こみせ通りエリアにおいて無電柱化や道路の美化事業、イベントへの人的・財政的支援などを実施している。

キーパーソンからのコメント

「ひと」と「まち」をつなぐ商店街でありたい

明暦2年(1656年)、黒石初代藩主津軽信英公は「こみせ」と呼ばれる木製アーケードを作り、外観に規制を敷いたり近江商人を呼び込むなど、まちづくりや殖産振興に努めました。それから365年、「中町こみせ通り」は先人達の想いと努力に支えられ、当時の趣をそのままに現代まで、我々の生活の場、交流の場として在り続けています。

私は23歳のとき、父親の病気がきっかけで家業を継ぎました。あれから15年、地域のことは何一つわからない私を育ててくれたのは家族であり地元の先輩方であり、そして商店街の仲間達でした。こみせができてから今まで、こんな困難を先人達は幾度となく乗り越えてきたはず。これからも仲間と一緒に汗をかき、酒を交わし、新たな時代に向かってはばたきます。



こみせ通り商店街振興組合 理事長 村上陽心

商店街の概要

私鉄弘南鉄道黒石駅から徒歩約10分に位置するこみせ通り商店街は、国重要伝統的建造物群保存地区の「中町こみせ通り」を中心とする商店街。「こみせ」とは藩政時代に作られた木製のアーケードで、中町こみせ通りは現在の青森市から弘前市をつなぐ街道筋として発展。伝統的建造物やアーケードがほぼ藩政時代のまま現存するのは全国でも大変珍しく、「日本の道100選」にも選定されている。「こみせ」を活かした多くのイベント開催に加え、ご当地グルメとして近年脚光を浴びる黒石つゆやきそばや酒蔵見学等を目当てに、毎年数万人が訪れる黒石市の主要観光地。

所在地 青森県黒石市中町
人口 約3.2万人(青森県黒石市)
電話 0172-52-2558
FAX なし

URL <https://kuroishi.or.jp/sightseeing/komisedoori>
会員数 31名
店舗数 29店舗(小売業18店、飲食業5店、サービス業2店、金融業1店、医療サービス業1店、その他2店)

商店街の類型 複合型
主な客層 国内観光客、
家族連れ(親子)
／60歳代、50歳代